

鹿角ゼロカーボンラジオ Nice Action!

第18回（2月11日（火）放送分）の概要

今回は、ゼロカーボンに係る最新の技術・取り組みについて話をします。

番組を始める前までは、自分からすごく遠いところの話だと思っていた再エネ。実は以外に身近なところでも使われ始めているんですよね？

これまで番組内で紹介した技術・取り組み以外でも、今後の活用・実施が期待されるものが多いです。

その中でも、鹿角市でも取り入れられる可能性がありそうなものをいくつか紹介したいと思います。

日常生活に取り入れられそうな手軽な仕組みのものでしょうか？

可能性はあります。

まずは、ペロフスカイト太陽電池と呼ばれる太陽光発電です。

これは、みなさまも最近よく聞く言葉かもしれないです。

軽量で薄型であり、曲げたいことができることが特徴のパネルを使うもので、その良さを活かして、例えば重いものを載せることができない屋根の上や、通常設置が難しい壁にも設置が可能なものとなっています。

例えば車のボディに張り付けることも可能です。

メリットとしては、他にヨウ素という一般的な元素を主原料としており、希少金属に頼らなくてよいということもあります。

かなりフレキシブルで、窓や壁にも使える素材のようですね。

そのなのです。

このパネルは、耐久性や、費用を上回る効果を上げられるかといった採算性について課題がありますが、これらが克服された際には、鹿角市にも積極的に導入される可能性があります。

特に鹿角は多雪地帯なので、ペロフスカイト太陽電池の活躍する場が多くありそうです。例えば、壁のうち雪の影響を受けにくい高い場所に張り付けるといったことも考えられます。今後の動きに注目ですね。

住んでいる土地の特徴や、自然風土に合わせた発電方法が次々実証され、設置されているんですね。

次は、「垂直ソーラー」システムというものです。

これは、両面で発電する太陽光パネルを垂直にしたものを一定の面積に並べたもので、それを農地の際とか、駐車場に置いたりして発電させます。

この方式のメリットは、積雪深より高い位置に設置すると雪が積もっているときにも発電する。斜めから日が入る時間帯である朝と夕方に多く発電できる、従来活用できなかったスペースを有効活用できる、といったものです。特に朝と夕方に発電できると、他の太陽光の発電ピークとずらすことができ、最近問題になっている「太陽光発電が一斉に発電する時期や時間は結果的に電気が余ってしまうことがある」という点への対応としても有効なものとなります。

なお、雪面の場合、反射する光も捨てがたいのですが、この方式だと、その反射光も有効に発電に活かすことができます。

ちょっとしたヒントや使ってみての感想から、効率のいい発電方法が次々生み出されていくんですね。

そうですね。

この方式は、ヨーロッパではすでに一定の実績があり、日本でもいくつか先駆的な施工が行われています。今後、日本でも事業としてメリットあるとなれば、多雪地帯の鹿角地域でも広まっていくのではないかと注目しているところです。

日照時間が少ないことを心配しなくてもいいのは、ソーラーの利用率・設置率の向上につながりそうです。